

虫の声

☆『APEX CLUB』も、早や第8号を発行することとなりました。「発行を楽しみに待っている」という会員の方々のお声もちらほら届いており、編集に携わる者として嬉しい限りです。

☆次号の『標本欄』のテーマは《私と料理》です。自慢の料理、失敗談などを500字程度にまとめ、写真と共に、ぜひ、ご投稿ください。また『むしくいす』へのご応募もお待ちしております。(弘)

APEX CLUB

'99/6 第8号

アペックス産業株式会社

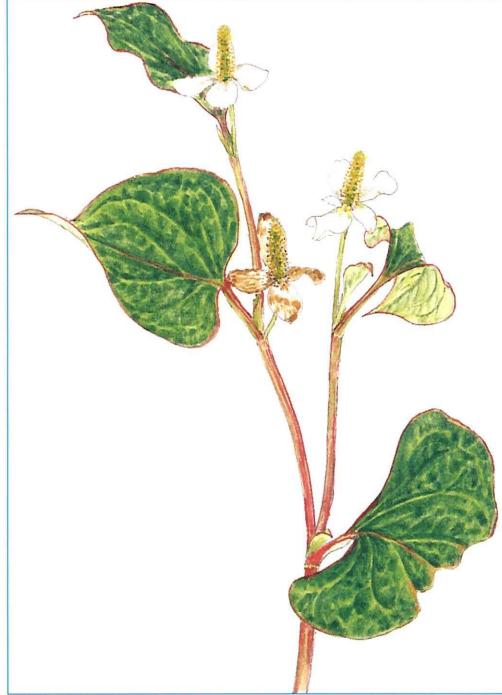
『APEX CLUB』
発行 1999年6月1日(通算第8号)
発行所 アペックス産業株式会社「APEX CLUB」編集委員会
〒105-0014 東京都港区芝2-23-4
電話 03-3455-6474 FAX 03-3455-6558
発行人 元木 貢(編集委員長)伊藤弘文
(編集委員)和田芳武 白坂昭子
中川麻美子 岩佐賢一
山口力広
制作協力 株式会社オービット

ギャラリー

植物のスケッチ

東京女子医科大学名誉教授
平岡環境科学研究所監修

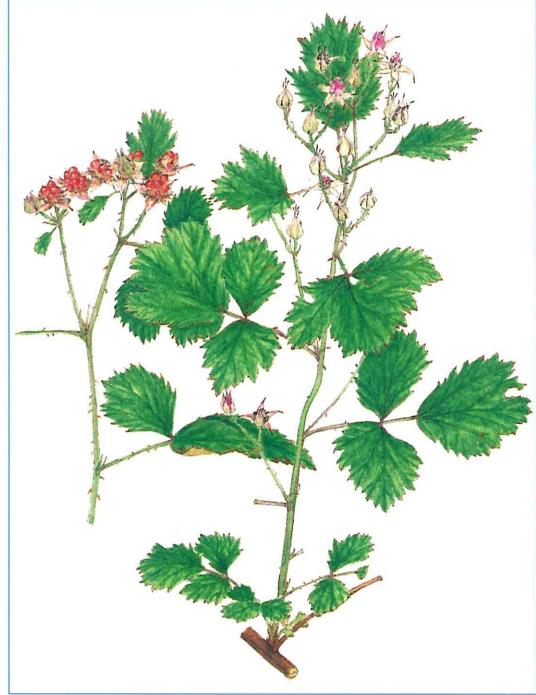
宇津木和夫



『ドクダミ』 東京 Mey.30/1998



『ハンゲショウ』
軽井沢町立植物園 Aug.3/1994



『ナワシロイチゴ』
花:白河 July.6/1996
実:世田谷 July.7/1996

●プロフィール 一九三二年生まれ。中学校から高校にかけて数年間を群馬県の沼田で過ごしたことが、自然に親しむ契機となつた。千葉大学で生物学を学び、東京大学大学院で動物学を専攻し、動物のガンの研究にも携わつた。東京女子医大に奉職中にクマモンの研究を始め、現在も続いている。(本紙第6号参照)

福島県の白河にセミナーハウスが建設された一九七八年頃から、学生とともに自然の中を歩く機会ができ、一九八一年頃から植物画を始めた。綺麗に描くことより、自然を観察して忠実に描くことを目的としている。初心者であったが、一枚描くことに観察眼を養つたので、徐々に良い絵が描けるようになった。

●作者寸言

『ドクダミ』 家の周辺など、どこにも見られる。地下に白い丈夫な根茎があり、冬にはこれだけが残る。春になると地上に葉を出し五月七月頃花を咲かせる。白い花弁のように見えるのは総包で、中央から上に突き出た花軸に多数の淡黄色の小さい花を付ける。草全体がもつ異臭のために嫌われるが、端正な姿である。いろいろな薬効があるので、十薬(ジユウヤク)とも呼ばれる。ドクダミは「毒矯め」の意とも言われる。最近は煎じて飲むドクダミ茶も販売されている。

『ハンゲショウ』 ドクダミと同じ仲間の植物。日陰で水気の多い所に生える。軽井沢町立植物園の木陰で見つけて描いた。茎の先の葉二~三枚は表面が半分ほど白くなる。その葉のつけ根から多数の花を付けた花穂が出る。

名前の由来は半夏生の頃(夏至から十一日目の七月十一日頃)に白い葉を付けるからとも言い、また、葉の半分が白いから半分化粧した意だとも言われる。

『ナワシロイチゴ』 バラ科の植物で、至る所の原野に生える。茎は地面を這つて伸び、そこから直立して出る茎に葉と花を付ける。花弁は淡紅紫色で、寄り添つて立つの他のバラ科の花のようには目立たないが、六月の苗代の頃に赤い実が熟すので「苗代苺」の名が付いている。実は食べられる。

●プロフィール 一九三二年生まれ。中学校から高校にかけて数年間を群馬県の沼田で過ごしたことが、自然に親しむ契機となつた。千葉大学で生物学を学び、東京大学大学院で動物学を専攻し、動物のガンの研究にも携わつた。東京女子医大に奉職中にクマモンの研究を始め、現在も続いている。(本紙第6号参照)

福島県の白河にセミナーハウスが建設された一九七八年頃から、学生とともに自然の中を歩く機会ができ、一九八一年頃から植物画を始めた。綺麗に描くことより、自然を観察して忠実に描くことを目的としている。初心者であったが、一枚描くことに観察眼を養つたので、徐々に良い絵が描けるようになった。

●作者寸言

『ドクダミ』 家の周辺など、どこにも見られる。地下に白い丈夫な根茎があり、冬にはこれだけが残る。春になると地上に葉を出し五月七月頃花を咲かせる。白い花弁のように見えるのは総包で、中央から上に突き出た花軸に多数の淡黄色の小さい花を付ける。草全体がもつ異臭のために嫌われるが、端正な姿である。いろいろな薬効があるので、十薬(ジユウヤク)とも呼ばれる。ドクダミは「毒矯め」の意とも言われる。最近は煎じて飲むドクダミ茶も販売されている。

『ハンゲショウ』 ドクダミと同じ仲間の植物。日陰で水気の多い所に生える。軽井沢町立植物園の木陰で見つけて描いた。茎の先の葉二~三枚は表面が半分ほど白くなる。その葉のつけ根から多数の花を付けた花穂が出る。

名前の由来は半夏生の頃(夏至から十一日目の七月十一日頃)に白い葉を付けるからとも言い、また、葉の半分が白いから半分化粧した意だとも言われる。

『ナワシロイチゴ』 バラ科の植物で、至る所の原野に生える。茎は地面を這つて伸び、そこから直立して出る茎に葉と花を付ける。花弁は淡紅紫色で、寄り添つて立つの他のバラ科の花のようには目立たないが、六月の苗代の頃に赤い実が熟すので「苗代苺」の名が付いている。実は食べられる。

●プロフィール 一九三二年生まれ。中学校から高校にかけて数年間を群馬県の沼田で過ごしたことが、自然に親しむ契機となつた。千葉大学で生物学を学び、東京大学大学院で動物学を専攻し、動物のガンの研究にも携わつた。東京女子医大に奉職中にクマモンの研究を始め、現在も続いている。(本紙第6号参照)

福島県の白河にセミナーハウスが建設された一九七八年頃から、学生とともに自然の中を歩く機会ができ、一九八一年頃から植物画を始めた。綺麗に描くことより、自然を観察して忠実に描くことを目的としている。初心者であったが、一枚描くことに観察眼を養つたので、徐々に良い絵が描けるようになった。

●作者寸言

『ドクダミ』 家の周辺など、どこにも見られる。地下に白い丈夫な根茎があり、冬にはこれだけが残る。春になると地上に葉を出し五月七月頃花を咲かせる。白い花弁のように見えるのは総包で、中央から上に突き出た花軸に多数の淡黄色の小さい花を付ける。草全体がもつ異臭のために嫌われるが、端正な姿である。いろいろな薬効があるので、十薬(ジユウヤク)とも呼ばれる。ドクダミは「毒矯め」の意ともと言われる。最近は煎じて飲むドクダミ茶も販売されている。

『ハンゲショウ』 ドクダミと同じ仲間の植物。日陰で水気の多い所に生える。軽井沢町立植物園の木陰で見つけて描いた。茎の先の葉二~三枚は表面が半分ほど白くなる。その葉のつけ根から多数の花を付けた花穂が出る。

名前の由来は半夏生の頃(夏至から十一日目の七月十一日頃)に白い葉を付けるからとも言い、また、葉の半分が白いから半分化粧した意だとも言われる。

『ナワシロイチゴ』 バラ科の植物で、至る所の原野に生える。茎は地面を這つて伸び、そこから直立して出る茎に葉と花を付ける。花弁は淡紅紫色で、寄り添つて立つの他のバラ科の花のようには目立たないが、六月の苗代の頃に赤い実が熟すので「苗代苺」の名が付いている。実は食べられる。

駆除

しかし、現実には、ズズ



おじやま虫ハチ

【プロフィール】

ハチは種類によ

つては、人を刺し、時には命を奪う昆虫害虫ですが、その一方で、他の害虫を捕食したり、蜂蜜、蜂の子等、食糧となったり、蜜口、蜂ヤニ、花粉の媒介等、人々の生活にとつて有益な虫(益虫)でもあります。

【種類】

ハチの種類は、世界で三

【プロフィール】

ハチは種類によ

つては、人を刺し、時には命を奪う昆虫害虫ですが、その一方で、他の害虫を捕食したり、蜂蜜、蜂の子等、食糧となったり、蜜口、蜂ヤニ、花粉の媒介等、人々の生活にとつて有益な虫(益虫)でもあります。

【種類】

ハチの種類は、世界で三

【正直?の懐に運宿る

クリームへの対応にもいろいろあ

りますが……。

ある冬、I氏はスキーを楽しんだ

後、板の搬送を宅急便にまかせてラ

【正直?の懐に運宿る

クリームへの対応にもいろいろあ

りますが……。

ある冬、I氏はスキーを楽しんだ

後、板の搬送を宅急便にまかせてラ